

北東インド（カルビ・アングロン）ゾウ保全プロジェクトにおける 地域主導プロジェクト（2011年3月現在）

はじめに

ゾウは森の中を移動する中、やむなく行き当たったり、おいしく栄養価の高い米にひかれたりして、水田・農村に現れます。カルビ・アングロン自治区は8割が森林におおわれていますが、森林の所々が切り開かれて水田が耕作されているためです。特に稲刈り前のシーズンに水田で稲を食べられたり、収穫後、物置や家の中に貯蔵した稲穂が「強奪される」こともあります。ゾウを追い返そうとした住民が逆襲を受けて死傷事故が起きることもあります。

カルビ・アングロンのゾウ



この問題の根本的な解決は、賢明な計画に基づいた土地利用を行うことにかかっていますが、短期的な対処も必要です。

その際に重要なことは、実際にゾウと隣り合って暮らし、トラブルの当事者となっている地域（コミュニティ）の人々の納得と参加に根ざした方法がとられることです（community-based conservation project）。

1 プロジェクトの立案と実施まで

2009年10月22日と11月21日、関係集落の代表者たち、森林局（シロニジャン地区）、JTEFの現地パートナーWTIが集まり、人とゾウのトラブルの現状と、トラブルを緩和するための対策について意見交換会が行われました。

その結果、電気柵を設置・管理し、ゾウの水田・集落（各集落を取り囲むようにして水田が耕作されています）への侵入を防ぐよう試みることが決まりました。

また、この意見交換会での決定を実行に移していくための「地域住民委員会」が立ち上

げられました。

ゾウとのトラブルを防止するための意見交換会



地域住民委員会の構成

委員長	1名（住民）
副委員長	1名（住民）
事務局	2名（WTI スタッフ、カルビアングロン自治区森林局）
会計担当	2名（地域で農業技術・保健について活動する NGO メンバー、住民）
委員	11名（住民）

その後開催された地域住民委員会では、電気柵の管理担当者 2 名が住民から選任されました。管理担当者の主な役割は次のとおりです。

- ・ 電気柵に正常に電流が流れているかどうかを日常的に確認する。
- ・ 正常に作動していない場合は故障箇所を調べて修繕する。（技術的な助言や作業は WTI スタッフが行なう。）
- ・ モンスーン季節（おおむね 6 月から 10 月頃）には、電気柵を取り外す（暴風雨で支柱が倒れたり、電線が切れてしまうため）。

管理担当者に対しては、WTI スタッフによって電気柵維持管理のためのトレーニングが行われました。ゾウによる電気柵の破損のパターン、それに応じた修理の方法などについてです。

管理担当者の手間賃や修繕費用は、地域住民委員会が負担します。委員会は、電気柵の恩恵を受ける関係集落の住民から、世帯毎に月 5 ルピー（約 10 円）を募ります。集まったお金は、選ばれた会計担当者 2 名が管理します。

2 電気柵の設置

2010 年 6 月、この地域住民委員会が中心となり、シロニジャン地区のチョウキホーラの一帯に設置されました。

電気柵の材料を搬入



この場所は、カルビ・アングロン北東部の森林（ガランパニ、ナンボルなどいくつかの野生生物保護区）とシロニジャン地区の農地との境界、約 15 キロの区間です。

カルビ・アングロンで電気柵を設置した区間（赤く記した箇所）



WTI スタッフのディリップさんが電気柵を確認する。



この電気柵設置によって恩恵を受けることが想定された集落は25にのぼります。1集落あたりの家屋の数は4～131戸（合計847戸）、人口は21～489人（合計3119人）です。

3 電気柵設置の結果

2010年10月12日、地域住民、森林局、WTIが電気柵設置の現場を合同視察しました。住民によれば、電気柵設置後から3,4ヶ月間は、柵を越えようとするゾウはいなかったが、最近1頭のゾウがそれを試みるようになったとのことでした。そのゾウは、電気柵の支柱の土台を踏みつけて支柱を倒そうとしたり、木の枝を柵に投げつけて、突破口を作ろうとしていたといえます。このゾウは、足形から前足のひとつが小さいという特徴から、以前住民を殺してしまったゾウと同一個体と推測されています。

地域住民、森林局、WTIが電気柵設置の現場視察



この視察の前後に地域住民委員会がシロニジャン地区内で数度開催され、電気柵設置の効果、電気柵の破損を防ぐ方法、広くゾウとのトラブルを避ける方法について意見交換が行われました。

地域住民委員会での討論



電気柵設置の効果は以下の通りすばらしいものとなりましたが、野生動物特にゾウは頭が良く「対策」を学習するので、今後の監視の継続とその結果を踏まえたたゆまぬ管理の改善努力が重要になると考えられます。

電気柵設置効果の評価

	電気柵設置前	電気柵設置後
耕作面積	250 ヘクタール	296 ヘクタール
作物の種類	米、からし、バナナ他	←
ゾウによる侵入	25 の集落すべて	3 つの集落のみ
地域住民からの声	以前は多くの村にやってきて、家を壊し、田畑を荒らし、村人を殺すこともあった。	電気柵が立てられた後は、ゾウはビジュリ（公有林）の中にいるようになってほっとした。しかし、いくつかの村には時々ゾウが来るようだ。
ゾウによる死亡事故	2 名（2009-2010）	なし
ゾウの死亡事故	1 頭（密猟）	なし
家屋の損傷	多数	2 戸（1 頭のゾウが電気柵を越えられる場所を見つけたためだが、後に設置方法が改良された。）